

活動名称 (40字以内)	被災地福島の農業と環境放射能を知るツアー		
団体名等	農学生命科学研究科アイソトープ農学教育研究施設		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input checked="" type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input type="checkbox"/> 面接
	<input type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		3 人
	<input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動			
参加資格等	学部学生		
活動期間	2018/7/中下旬 ~	主な活動場所	福島県 農学生命科学研究科
	2 日間(日程は応相談)		
目的	福島第一原子力発電所事故で被災した地域農業の現状と問題点、および放射線に関する知識を習得する		
具体的な内容 (800字程度)	<p>東京電力福島第一原子力発電所の事故から6年を経過し、被災地以外では原発事故への意識が低くなっているが、福島県の一部の地域では避難指示が続いており、未だ避難者数は9万人程度存在している。本プログラムは、2017年3月に一部地域を除き避難指示が解除される福島県飯館村や、農産物の安全性を確認している福島県農業総合センター(郡山市)を訪れ(1泊2日)、被災地の視察、住民との対話を通して現状や復興への課題を理解するとともに、現地で試料の採取、大学で測定等を行い、放射線の基礎知識の習得することを目的とする。具体的な内容は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地の視察：飯館村を訪れ、村内を巡り、住宅地、農耕地で実施されている表土剥取りなどの除染作業、剥ぎ取った汚染土壌を含んだフレコンバック等、復興へ向けた現地での取組み状況を視察する。また、簡易な空間線量計を持ち、大学周辺の空間線量と比較してどのような場所で、どのくらい線量が高いかなどを調査する。 ・住人との対話：帰村した地元住民と対話する場を持ち、震災直後の混乱した状況やこれまでの対応を伺うとともに、除染後の農業生産再開の可能性、地域コミュニティの復活等自然と人間双方に関わる複合的な課題について議論を行う。 ・放射線測定体験：我々が試験を実施している飯館村内の圃場にて、土壌等サンプリングを行う。採取した土壌は、大学に持ち帰り、Ge半導体検出器を用いた測定を通して、放射線の基礎知識を身に着ける。 ・福島県農業総合センター視察：最後に、福島県産農産物の安全性の確認のため、農産物のモニタリング検査を実施している福島県農業総合センター(郡山市)を視察する。放射性物質の検査手法や、震災後からこれまでの汚染状況、行政の立場でこれまで指導してきた内容や、それぞれの問題点を伺い、農業復興の現状・将来について議論する。 ・凡その日程：1日目 9時東京発-11時福島着-レンタカーで移動-飯館村内視察-住民と対話-土壌サンプリング-福島泊、2日目 9時発-福島県農業総合センター-13時郡山駅-15時東京-大学で放射能測定-解散 		
備考			
参加するための費用*	内 訳(1名当たり)	その他*特記事項は以下に記載	
	交通費 17,000 円 宿泊費 10,000 円 食費 () 円 計 27,000 円	奨励金額 17,600 円	
ウェブサイト等	http://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/wp/fg6/		